

大震災の経験活かす

東北工業大学の 危機管理体制

地域と連絡会を組織

仙台市に立地する東北工業大学(渡邊浩文学長、工学部、建築学部、ライフデザイン学部)は、東日本大震災の経験を活かした危機管理を行っている。この体制の要である樋野隆一法人本部事務局長は、「規程は重要だが、大学人としてどのように動くべきか」を考え続けることが重要と指摘する。樋野事務局長と川村弘昭法人本部事務局長に聞いた。

樋野事務局長 川村次長に聞く

○東日本大震災を振り返る
『(東日本大震災発生時には)地震の揺れは約3分間にわたり、強弱の違いはあるにせよ概ね3つの「波」を感じた。揺れが収まったのを見計らい、八木山・長町の両キャンパスでは「学内指定避難場所」への避難が自発的に行われた。避難してきた学生・教員に所属学科単位で集まるよう促し点呼作業を行ったが、避難訓練時とは異なり安否確認名簿等の用意ができません、事務所内にあるコ

ピー用紙を使用し、所属や氏名を記入する方法で安否確認を行った。その後、八木山キャンパスでは帰宅可能な学生については帰宅させ、帰宅が困難な学生については、一時的に1号館で待機するように呼びかけた。長町キャンパスでは人的配置が難しいことから、早い段階で施設内への立ち入りを禁止したが、気温の低下や降雪もあつたことから、両キャンパス間の移動に使用している「シャトルバス」内で暖をとってもらい、

自力での帰宅を希望する学生には、帰宅を許可した』(東北工業大学)震災から復興へ3・11東日本大震災」より抜粋)ここから分かるように、非常時、特に壊滅的な事態においては、通常時に想定していた通りになるとは限らない。「本学では、1978年の宮城県沖地震においても施設被害を受けたこと、また

「学校法人東北工業大学危機管理規程」による「危機」とは、「災害及び火災のほか、テロ、重大な感染症等の発生その他の重大な事件又は事故」等とされる。具体的には、自然災害、重大事故、学内外での教育研究活動中の事故、施設、設備、システム、ネットワークのトラブル、ハラスメント、人権侵害の発

生、大規模な食中毒の発生などである。通常時は「危機管理委員会」(委員長は理事)が設置され、メンバーは学長、副学長、学部長、学生委員長、教務委員長、入試委員長、高校長、教頭、法人事務局

る。事務局は総務企画課に置かれ、通常時の防災マニュアル作成なども同課の職務となる。なお、同規程には「危機管理報告書(第1報、経過報告、最終報告)」が添付されており、教職員は同じフォーマットに基づい



樋野事務局長(右)と川村次長

て報告しなければならぬ。高校も含めた危機管理に係る方針の検討、具体的な対応策などを協議する。実際に危機事象が発生すると「危機対策本部」(本部長は理事長)が立ち上がる。長町キャンパスは、ライフデザイン学部長とキャンパス事務局長が八木山の本部と協働して危機管理体制をと

る。事務局は総務企画課に置かれ、通常時の防災マニュアル作成なども同課の職務となる。なお、同規程には「危機管理報告書(第1報、経過報告、最終報告)」が添付されており、教職員は同じフォーマットに基づいて多くの職員は対応に慣れていきます」と川村次長。教職員、学生はほぼ東北出身であり、東日本大震災を経験している。このため、学生も避難訓練に

「自然災害の対応で重要なのは避難訓練です」と川村次長は言い切る。「東日本大震災では停電になり学内放送が使えなくなりしました。しかし、日ごろから避難訓練を行っていたため、学生は迅速に行動してくれました。安否確認は、東日本大震災の失敗を踏まえ、ネットで迅速に確認ができるようにしています。コロナ禍では訓練ができなかったため、今年実施しないと訓練を経験した学生が来年には一人もいなくなるのです。それは避けたいといけません。本学では、毎年内閣府と気象庁で実施する「緊急地震速報」の訓練にも参加して、突然のアラームで慌てしまわないよう

に行動するには訓練をずるしかありません」。震災の経験があるからこそ、非常時へのスイッチは入りやすい。とはいえ、避難訓練の重要性を指摘する経験者の意見は傾聴すべきであろう。一方、次のようにも指摘する。「東日本大震災では、マニュアルや事前対策は全く役に立ちませんでした。とにかくそこにいる教職員、リソースのみで対応するしかありませんでした。理事長の指名を受けた危機対応の責任者は学長ですが、施設設備等については最も把握をしていた当時の大学事務局長が学長と先頭に立って迅速に対応に当たりました。このような経験から、同大学の規程は他大学と比較すると、「責任者の不在の場合は〇〇が代行する」という一文が多いようにもみえる。東日本大震災を経験して、地域との連携を強化した防災体制も築き上げた。当時、大学は臨時避難所になり、多くの学生が復旧・復興に汗を流した。地域が大学を見る目

が変わった。八木山地区には町内会が多いので「仙台八木山防災連絡会」を組織して、他の教機関や近隣病院にも参加してもらい、定期的に会合を開くことになった。歴代会長は同大学教授が就任している。また、自然災害で大学が停電になった際、優先して復旧工事をする協定を仙台電気工事事業協同組合と結んだ。大学生活協同組合や同大学のパートナー企業ユニパルと提携して、同じく災害時に優先的に物資を提供してもらうようにした。大震災を共に経験したからこそ地域ぐるみの対応と言える。○大学人としてどう行動するか 通常時の事件・事故はどのような体制で対応するのか。「学生のトラブルであれば、教務学生課が対応します。基本的には担当課長が主導しますが、難しい場合は総務課や大学事務局長、次長も交えて対応策を協議します。教職員や施設に関わ

多くの職員は対応に慣れていきます」と川村次長。教職員、学生はほぼ東北出身であり、東日本大震災を経験している。このため、学生も避難訓練に

「自然災害の対応で重要なのは避難訓練です」と川村次長は言い切る。「東日本大震災では停電になり学内放送が使えなくなりしました。しかし、日ごろから避難訓練を行っていたため、学生は迅速に行動してくれました。安否確認は、東日本大震災の失敗を踏まえ、ネットで迅速に確認ができるようにしています。コロナ禍では訓練ができなかったため、今年実施しないと訓練を経験した学生が来年には一人もいなくなるのです。それは避けたいといけません。本学では、毎年内閣府と気象庁で実施する「緊急地震速報」の訓練にも参加して、突然のアラームで慌てしまわないよう

に行動するには訓練をずるしかありません」。震災の経験があるからこそ、非常時へのスイッチは入りやすい。とはいえ、避難訓練の重要性を指摘する経験者の意見は傾聴すべきであろう。一方、次のようにも指摘する。「東日本大震災では、マニュアルや事前対策は全く役に立ちませんでした。とにかくそこにいる教職員、リソースのみで対応するしかありませんでした。理事長の指名を受けた危機対応の責任者は学長ですが、施設設備等については最も把握していた当時の大学事務局長が学長と先頭に立って迅速に対応に当たりました。このような経験から、同大学の規程は他大学と比較すると、「責任者の不在の場合は〇〇が代行する」という一文が多いようにもみえる。東日本大震災を経験して、地域との連携を強化した防災体制も築き上げた。当時、大学は臨時避難所になり、多くの学生が復旧・復興に汗を流した。地域が大学を見る目

が変わった。八木山地区には町内会が多いので「仙台八木山防災連絡会」を組織して、他の教機関や近隣病院にも参加してもらい、定期的に会合を開くことになった。歴代会長は同大学教授が就任している。また、自然災害で大学が停電になった際、優先して復旧工事をする協定を仙台電気工事事業協同組合と結んだ。大学生活協同組合や同大学のパートナー企業ユニパルと提携して、同じく災害時に優先的に物資を提供してもらうようにした。大震災を共に経験したからこそ地域ぐるみの対応と言える。○大学人としてどう行動するか 通常時の事件・事故はどのような体制で対応するのか。「学生のトラブルであれば、教務学生課が対応します。基本的には担当課長が主導しますが、難しい場合は総務課や大学事務局長、次長も交えて対応策を協議します。教職員や施設に関わ

ることは、総務企画課や施設管財課が行います」と川村次長は述べる。コロナ禍での対応を樋野事務局長が説明する。「2020年2月に対策本部を設置して以降、随時会議を開催し、対応を協議しました。4月中旬には行動指針(BCP)を制定、これに基づいて4月27日から前期オンライン授業を開始しました。大学院の授業や、学部4年生の卒業研修は6月上旬より対面授業を開始していましたが、7月上旬から学部生の一部科目の対面授業や一部クラブの課外活動を再開しました」。しかし、7月中旬に学

生にクラスターが発生したことにより再び対面授業及び課外活動は禁止に。即座に危機管理委員会を開き、学長が記者会見を開き、感染状況などを報告した。また、仙台八木山防災連絡会の総会や近隣町内会会長に対して丁寧に状況報告を行ったため、逆に地域との信頼関係が高まったという。最後に、樋野事務局長は「規程は大事です。しかし危機対応においては『大学人としてどういう行動をとるべきか』を一人ひとりが考えて行動することがより求められます」と指摘する。東北工業大学は今後、DXやGXにも力を入れるというが、すでに防災への取り組みは大きな特徴であるといえよう。

「杜の都」のくつろぎのホテル。



HOTEL, BANQUET & RESTAURANT

仙台カーテンパレス

日本私立学校振興・共済事業団

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4丁目1番5 ☎022(299)6211